

区分	意見	対応
まちづくりの方向性	交野市はアクセスが良い。交通利便性の高まりをまちづくりに活かすべき。	交通利便性は、本市の大きな強みです。総合戦略では、基本目標3における情報発信や都市基盤整備の視点として取り入れます。
	交野市は都市近郊だが自然が多い。まちづくりに自然という観点を入れるべき。	自然環境は、これまでも、これからも本市の強みです。基本目標3における取組みだけでなく、SDGsの観点からも重視していきます。
数値目標 KPI等	「交野は子育てに適していると思う」が低下している。教育環境の充実を図るべきでは。	子育て環境として、「教育」は最も重要な要素です。基本目標1において、交野ならではの魅力ある教育に取り組みます。
	「交野は子育てに適していると思う」が80%である。この数値は高いのか、低いのか。基準を考えることも重要。	同様の項目では、箕面市が80%、吹田市が70%を目標としています。本市の良好な数値を維持・向上できるよう取組みを進めます。
	「健康寿命」について、指標としては「平均寿命との差」の方が良いのでは。	指摘事項は、数値の把握という技術的側面から、毎年度定点観測することが困難ですが、可能な限り数値を示せるよう努めます。
	外的要因の変化を踏まえ、数値目標・KPIの見直しを行ってほしい。また、単年度で見直すことも必要ではないか。	数値目標・KPIについては、より実態を捉え、かつ定点観測可能な指標に変更しています。単年度見直しは今後検討していきます。
総合戦略案の内容等	内容が総花的すぎないか。雇用の場の創出といった総合戦略の趣旨から離れているのではないか。	総合戦略の趣旨からも、メリハリは重要と考えます。P12に、第2期の基本目標別の特徴を示した上で、取組みにも反映させます。
	行政と企業が一緒になって、女性の正規雇用を増やす取組みを進めることが必要ではないか。	女性を始めとした様々な方の就労ニーズに応えられるよう、第2期は、「身近な働く場所」を整える取組みに力を入れます（P21）。
	第2期では、自治体間の人を取り合いだけでなく、合計特殊出生率を上げるための取組みも必要ではないか。	第2期では、「待機児童の解消」と「負担軽減（市独自の第3子無償化）」に力を入れ、出生率向上に繋げていきたいと考えます。
	交野市の特徴である、「第1子を他市で産み、その子を育てるために移住してくる方」についても、引き続きフォーカスする必要がある。	基本目標1の取組みが、移住・定住を考える方にしっかりと伝わるよう、情報発信の方法を工夫していきます。
	交野市はベッドタウンであるため、市外で働きながら交野市で育てるという視点も必要。	市外で働きながら子育てをする方のニーズに応えられるよう、「待機児童の解消」などの環境整備に力を入れます。
	Society5.0について、その本質から個別メニューに出てこないことは正しいが、全ての項目でその観点を入れるという検討が必要。	Society5.0については、様々な取組みを進める際の重要な視点として位置づけるとともに、先進事例の情報収集を進めます。